

別紙1

吉川地域開校準備委員会 視察報告

榎尾学園 先進校視察 アンケート結果報告

施設一体型小中一貫校 現地視察の総括

視察対象校：和泉市立榎尾学園（施設一体型小中一貫校） | 実施日：令和8年7月27日(月)

1

01 視察概要と実施データ

視察の概要

- 視察対象校:和泉市立榎尾学園
(施設一体型小中一貫校)
- 実施日時:令和8年7月27日(月)
13:40~15:30
- 対象者:視察参加委員 11名
- 参加者数:計17名
(準備委員11名、事業者2名、教委4名)

アンケート回答状況

約90%

回答率(10名 / 11名)

※約90%という高い回答率で、多くの貴重なご意見をいただきました。

2

02 ハード面(施設)の総合評価

100%

全員が「オープンな学習空間
(メディアセンターなど)」を
高く評価

「オープンな学習空間が必要」と回答

●榎尾学園は、開放的な空間設計や安全性、全館空調による猛暑対策など、新しい学びの場としての工夫が随所に見られ、高く評価された。



榎尾学園 先進校視察アンケート結果報告

3

3

03 ハード評価:オープン空間と異学年交流



メディアセンター&オープン階段

- 中央のメディアセンターが各教室を結ぶ「つなぎ役」として機能。
- 自然な情報活用と異学年児童・生徒の交流が促進される仕掛け。

榎尾学園 先進校視察アンケート結果報告

4

4

04 ハード評価:安全管理と全館空調

見通しの良さと防犯性

- 見通しがよく、死角が非常に少ない設計。
- どこにいても教員の目が届きやすく、児童・生徒の安全性確保と防犯面で非常に高い安心感。

快適な全館空調

- 体育館・廊下・メディアセンターなどの全館空調完備。
- 近年の猛暑対策はもちろん、災害発生時の地域避難所機能としても極めて有効。



横尾学園 先進校視察アンケート結果報告

5

5

05 ハード評価:スムーズな動線と多角的な居場所



スキップフロア構造

- 1階～2.5階の緩やかな構造を採用。
- 小中学生の移動負担を軽減したスムーズな校内動線を実現。



多様な居場所づくり

- 畳スペースや人工芝の中庭を設置。
- 教室以外のリラックスできる多様な居場所が児童の安心感に貢献。

横尾学園 先進校視察アンケート結果報告

6

6

06 ハード課題：ランニングコストへの懸念

■ 光熱費・維持管理費の肥大化リスク

- 吹き抜けや開放的な大空間は、将来的な空調維持費用が過大になるリスクを提示。
- ハードの無駄を削り、ソフト面(特色ある教育カリキュラム)に割り振ることで志願者数の増加につながる魅力ある学校づくりを推進。



横尾学園 先進校視察アンケート結果報告

7

7

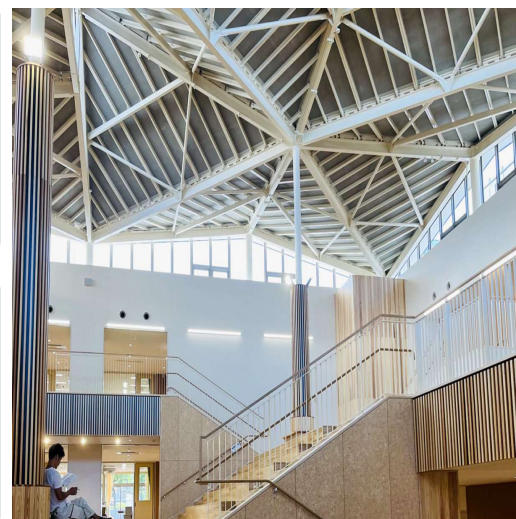
07 ハード課題：室内環境・アクセス

■ 採光・耐久性への配慮

- 直射日光・暑さ対策：窓が多い構造のため眩しさや健康面への配慮が必要。
- 壁面の汚れ：白基調の壁面は汚れが目立ちやすくメンテナンスコストの考慮が必要。

■ 駐車場・地域開放動線

- 地域開放への対応：体育館貸出や保護者・一般来訪時を見据えた駐車スペース確保。
- 児童の通学動線と一般車の進入動線を明確に分離。



横尾学園 先進校視察アンケート結果報告

8

8

08 ソフト評価:地域学習と小中教員連携

ふるさと学習の推進

- 地元の歴史・産業を取り入れた独自の地域学習。
- コミュニティ・スクールと連携し「槇尾祭」で成果発表を行うなど地域連携が活発。

専門教科の乗り入れ指導

- 中学校の英語・専門教員が小学校の授業を担当。
- 教員の専門性を活かした高度な指導と、「中1ギャップ」の解消に大きく貢献。



槇尾学園 先進校視察アンケート結果報告

9

9

09 ソフト評価:特認校と外部委託

特認校制度・独自の強み

- 広域から児童を集める魅力(外国語・少人数制・自然体験)。
- 通学用スクールバスの運行や、放課後の安心な学び場の提供が選択の決め手に。

水泳授業の民間外部委託

- 自校プールを建設しない選択。
- スイミングスクールへの外部委託で、コスト削減・天候不問・専門指導による泳力向上を目指す。



槇尾学園 先進校視察アンケート結果報告

10

10

10 開校準備:「8月新校舎移行(榎尾学園モデル)」

教職員の負担集中を回避する開校移行モデル

- 1 6月 新校舎 竣工
- 2 夏休み期間中 引っ越し実施
- 3 8月 模擬授業・試行運用
- 4 9月～ 本格運用スタート

4月に全てを一斉に始めるのではなく、夏休み期間中に移転を完了。8月の試行運用を経て9月に本格稼働することで、教職員への負担集中と現場の混乱を最小限に抑える。



榎尾学園 先進校視察アンケート結果報告

11

11

11 今後へ向けた検討事項:段階的開校・魅力創出・追加視察

検討事項1

段階的開校の検討

開校時期を分散し、現場負担を平準化。

- 夏休み中の移行や、高学年(7～9年生)の先行入学など、段階的な運用により児童生徒・教職員双方の負担を緩和する方法を検討。

検討事項2

独自魅力の発信

「〇〇ができる吉川小中一貫校」

- 特認校として広域から児童を惹きつける独自の強みを強力にアピール。

検討事項3

類似事例の追加視察

データと環境の適合性追求。

- より吉川地域に類似した他市町村の先進校への追加視察を検討。

榎尾学園 先進校視察アンケート結果報告

12

12

ご清聴ありがとうございました

吉川地域開校準備委員会 視察報告